

# 全国鳥類繁殖分布調査

## ニュースレター 第4号

2016年4月1日



ハクセキレイ：小野 安行

## 繁殖分布調査の現地調査がはじまります

まもなく繁殖分布調査の現地調査がはじまります。調査地登録をいただいたみなさんには、これから今年調査する予定か、それとも来年以降に予定しているかの聞き取りをさせていただき、今年調査を予定されている方には実際の調査に向けた調整をさせていただきます。ここでは、調査にあたって、質問の多い項目についてQ&A形式でお答えします。

### ○ 調査コースについて

#### Q 調査コースにあまり鳥が多くなさそうなのですが

A 環境の変化などにより、現在のコースの環境が鳥の多くない環境になってしまっていることがあります。今回の調査の目的は、鳥の現状を調べることとともに、過去からの変化を知ることです。鳥が少なくて面白くないかもしれませんが、鳥が少なくなったことも重要な結果なので、そのコースの調査が可能であれば、そこでの調査の実施をお願いします。ただ、それだけですと、そのメッシュにいる鳥が過小評価されてしまいますので、アンケート調査でそのメッシュにいる鳥を補足していただくとともに、可能ならば、鳥の多い環境に「任意定点」を設置して調査していただけると助かります。

#### Q 調査コースが荒れて通れなくなっているのですが

A 20年前に調査を実施したコースですので、ダムの中に沈んでしまっていたり、蘆化して通れなくなっていたりしているところもあります。そのような場合は、コースを変更してください。コースの一部を変更する場合は、ご自身で判断で変更して構いません。コースの場所全体を移動させる場合は、同じサブメッシュ(二次メッシュの4分の1)内の同じような環境の場所に移動していただく必要があります。2次メッシュの範囲などわからない場

合は、候補の場所を決めてから、事務局にご相談ください。

#### Q 調査地で過去に記録された鳥を知りたいのですが

A 調査地登録していただいたみなさん宛てに、今年調査を実施する予定かどうかの聞き取りのメールをお送りします。今年実施予定のコースがあるとお返事いただいた方には、調査用紙とともに、過去の記録鳥類についての情報もお送りします。

### ○ 現地調査について

#### Q 調査用紙などはどうやって手に入れるのでしょうか？

A ホームページで公開しています。今年調査を実施する方には、調査用紙と調査入力ファイルをお送りします。

#### Q ルートセンサスと定点で両方見られた鳥はどうしたらよいですか？ また定点が途中にある場合はどうしたらよいですか？

A ルートと定点は別の調査なので、同じ個体でも、それぞれで記録してください。定点が途中にある場合はルートセンサスを途中で中断して、定点調査を行ない、再びルートセンサスをしてください。中断前と中断後で同じ個体をダブルカウントしないように、注意してください。



カッコウ(藤井 薫), ホトギス(内田 博), シマセンニュウ(三木敏史)などの夏鳥がそろった頃に調査を実施する

**Q 調査はいつ行なえばよいのですか？**

A 2016年から2020年のあいだの、いずれかの年に実施してください。繁殖鳥の調査ですので、その場所で繁殖する鳥がそろった時期に実施してください。関東でしたら、カッコウ類が飛来した後の、5月中下旬くらいからでしょうか

**Q 調査結果の提出方法は？**

A コンピュータが使える場合はExcelに入力してお送りください。入力フォームは調査用紙とともにお送りします。5月過ぎからは、環境省の「いきものログ」のページからも入力できるようになる予定です。コンピュータが使えない場合は、調査用紙を提出してください。現地調査の結果とともに観察コードを必ずお知らせください。

**Q 調査中にケガをしてしまった**

A ボランティア保険に加入しています。事後で構いませんので、状況をご連絡ください。対人対物補償2億円、自身のケガ等の場合は死亡500万円、後遺症5-500万円、入院3000円/日(手術特約あり)、通院2000円/日がです。

**Q 交通費などはですか？**

A 助成金を1つとることができたので、調査地への距離に応じてお支払いできます。ただ、資金が潤沢にあるわけではないので、1調査地1名分とさせていただきます。山小屋の宿泊が必要など、金額が大きくなる場合は、実費精算しようと思いますので、事前に事務局までご相談ください。

**Q 夜行性の鳥が記録できないと思うのですが**

A 夜行性の鳥は、アンケート等で補完をお願いします。また夜間録音でカバーすることも考えています。詳細は本ニュースレターの5ページをご覧ください

**Q 最近リュウキュウサンショウクイやガビチョウなどが分布を広げているそうですが、どんな鳥ですか？**

A ホームページで写真や声を公開しました。これを聞いて、彼らがいるかどうか気にしてみてください。  
(<http://www.bird-atlas.jp/zukan.html>)

**○ 任意定点について**

**Q 定点の事前登録は必要ですか？**

A 事前にご連絡いただく必要はありません。自由に実施していただき、結果を報告いただく際に、定点の位置(緯度経度)をお知らせください。

**○ アンケート調査について**

**Q いつからの情報が対象になりますか？**

A 2016年から2020年までです。2016年2月にカワガラスの巣作りを観察したなどというのも対象になります。ぜひ情報をお寄せ下さい。

**Q 文献の情報は対象になりますか？**

A 対象になります。支部報などで繁殖情報が掲載されていたら、ぜひアンケート調査でお知らせください。

**○ データの扱いについて**

**Q データの利用や公表はどうなりますか？**

A 調査者はご自身のデータについては、希少種について配慮いただきつつ自由に利用することができます。また、調査実施期間中の途中結果は希少種保護のため20kmメッシュの分布図として定期的に事務局より配信いたします。この分布図の情報は調査とりまとめ終了後は環境省の「いきものログ」から一般に公開される予定です。

# リュウキュウサンショウクイや外来鳥に注目！

前回の繁殖分布調査から分布が大きく拡大している鳥が何種かいます。それがサンショウクイの亜種リュウキュウサンショウクイと、ガビチョウ、ソウシチョウなどの外来鳥です。これらの鳥の状況や識別ポイントについて紹介します。



リュウキュウサンショウクイ 撮影：湯浅芳彦

## リュウキュウサンショウクイ

リュウキュウサンショウクイはサンショウクイの一亜種です。亜種サンショウクイが日本に夏鳥として渡来するのに対して、亜種リュウキュウサンショウクイはもともと、沖縄県や九州南部にのみ留鳥として生息していました。しかし、1990年代ごろから次第に九州の北部や、四国地方でも観察されるようになり、一部では繁殖も確認されています。気候変動により、チョウや魚類、植物など、様々な生き物で生息分布の変化が見られますが、リュウキュウサンショウクイもその流れに乗っているのかもしれませんが。バードリサーチでは、2010年からサンショウクイの情報を収集しています。これまでの調査で、近畿地方と静岡から神奈川にかけての地域でもリュウキュウサンショウクイが越冬期に記録されるようになりました(図1)。さらに繁殖期の記録も出てきて、定着が始まっている可能性があります。現在までの状況は、バードリサーチの「サンショウクイプロジェクト」の結果として報告されています。ご興味のある方は、その記事 (<http://db3.bird-research.jp/news/201603-no1/?key=ijxh58>) をご覧ください。

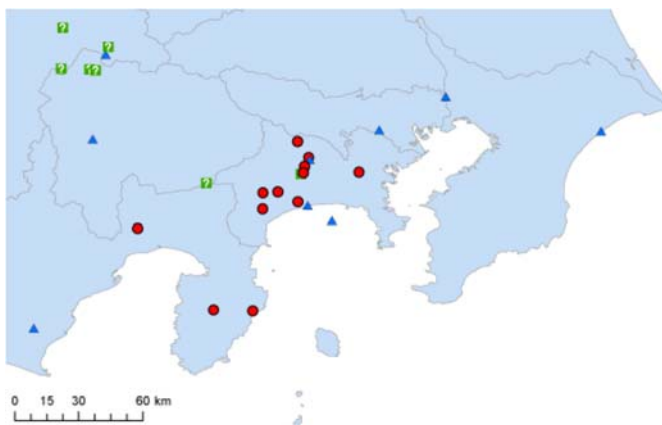


図1. 2016年2月までの関東地方におけるサンショウクイの観察報告の分布。●が亜種リュウキュウサンショウクイ、▲が亜種サンショウクイ、?は亜種不明個体。

## サンショウクイとの見分け方

形態的には、サンショウクイと比べて、胸から腹にかけて黒っぽい、額の白色部が狭い、背中が黒っぽいという特徴があります。しかし、サンショウクイは飛んでいるところを見るのが多く、なかなかじっくり姿を観察することができません。そこで、声にも注目してください。リュウキュウサンショウクイの方が単調で、やや高く、音色がフラットまたは尻下がりで調子の声をしているのです。

繁殖分布調査のホームページに鳴き声を掲載したので、聞き比べてみてください。

## ガビチョウ

全長21~24cmでツグミ大の鳥です(図2)。もともとは中国南部から東南アジア北部にかけて広く生息している鳥ですが、日本では、福島、関東、九州を中心に、徐々に分布を拡大しています(図3)。地上採食することが多く、また留鳥性が強いので、多雪地域には生息していませんでした。しかし最近では多雪地域にも繁殖期だけ記録されることがあり、こうした地域でも生息していないかどうか注意が必要になってきました。



図2. ガビチョウ(撮影：内田 博)

- 2002年まで
- 2007年まで
- 2012年まで

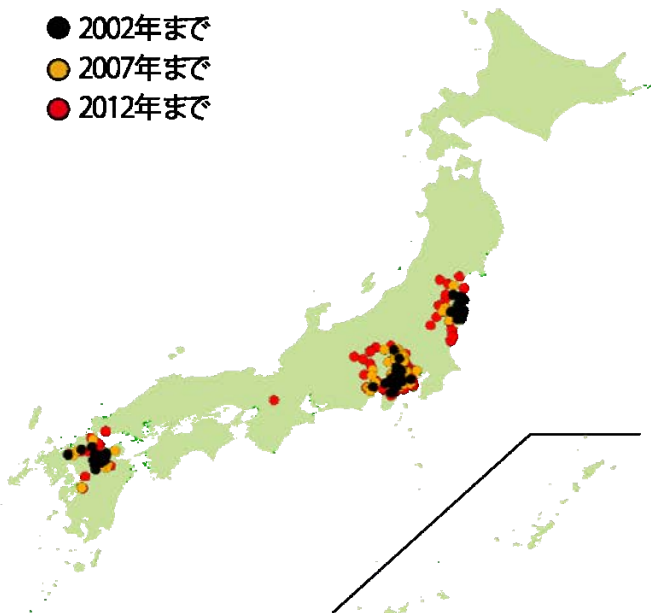


図3. ガビチョウの分布の変化。3地域から放射状に分布が広がっているのがわかる。

### 特徴

全体に茶褐色をしています。眼のまわりには、はっきりとした白色部があり、後方へ細く延びています(図2)。うるさいくらい大きな声で、少しくログミに似た複雑な声で鳴きます。様々な鳥の声をまねて鳴くことも多いので、注意が必要ですが、逆にそれが特徴でもあります。さえずりをホームページに掲載しているので、聞いてみてください。

### ソウシチョウ

全長約13~16cmでスズメ大の鳥です。ガビチョウと同様に中国南部から東南アジアにかけて生息している鳥ですが、日本では各地に侵入して、その地域の最優占種になってしまっているところもあります。ブナ林などで繁殖し、冬になると標高の低い場所に移動する習性を



図4. ソウシチョウ(撮影:藤波不二雄)

- 2002年まで
- 2007年まで
- 2012年まで

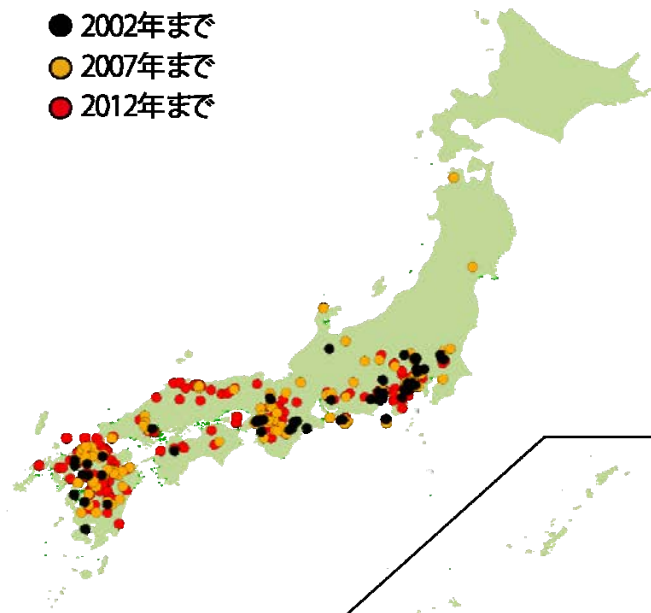


図5. ソウシチョウの分布の変化。ガビチョウとは違い、飛び火的に分布が広がっている。

### 特徴

上面は暗灰緑色で喉は鮮やかな黄色、胸は帯状に赤くなっています。くちばしが赤く、中国の鳥だけにチャイナ服のきれいなお姉さんの雰囲気があります。鳴き声はガビチョウと少し似ていますが、小鳥だけにもっと柔らかい口笛のような音色です。さえずりには2種類ありますが、どちらもホームページに掲載してありますので、聞いてみてください。

この2種と比べると局所的ですが、同じチメドリ科のカオグログビチョウ、カオジログビチョウ、ヒゲガビチョウも定着しています。(株)鳥類環境の「チメドリ科簡易式別ガイド」(<http://www.torikan.co.jp/webgairaisyu/cont/>)もご覧になってみてください。

【植田睦之】



図6. カオグログビチョウ(撮影:内田博)

# ICレコーダーをもちいた 夜行性鳥類調査を計画中

アオバズクなどの夜行性鳥類が減少しています。しかし調査の難しさから、その状況はよくわかっていません。Panasonic社から100台のICレコーダーを提供いただいたので、これを使った夜行性鳥類の声の聞き取り調査を計画しています。



アオバズク 撮影:内田 博

過去2回の繁殖分布調査結果の比較によると、ヨタカ *Caprimulgus indicus*, ヒクイナ *Porzana fusca*, アオバズク *Ninox scutulata* などの夜行性の鳥が減少しています。しかしながら、これまでの調査は昼間の現地調査を主としており、夜行性の鳥に関しては、アンケート調査や文献記録で補完されたもので、今後広範囲な調査が必要です。夜間の現地調査は、人的負担が大きく、また安全面でも問題があります。

近年ICレコーダーの性能が向上し、野鳥の声の録音に使われています。また、タイマー機能のある機種もあり、これを使えば昼間の明るいうちに録音機をセットして、夜間の必要な時間帯だけ録音し、現地調査終了後に回収することができます。そこで今回の繁殖分布調査でもICレコーダーを使った調査を計画しました。

## Panasonic社からの寄贈

調査機材については、Panasonic社から現行のひとつ前の「RR-XXS455」という機種を100台提供していただけることになりました(図1)。鳴き声録音の第一人者の松田道生氏に試験をしていただいたところ、調査に使うには十分な機能があるとの評価をいただきました。この機種では、毎日指定した時刻に録音を開始、終了することができます。標準で付いている内蔵電池と、内蔵メ



図1. Panasonic社から提供いただいたRR-XXS455と 防風、防水用の簡易ケース

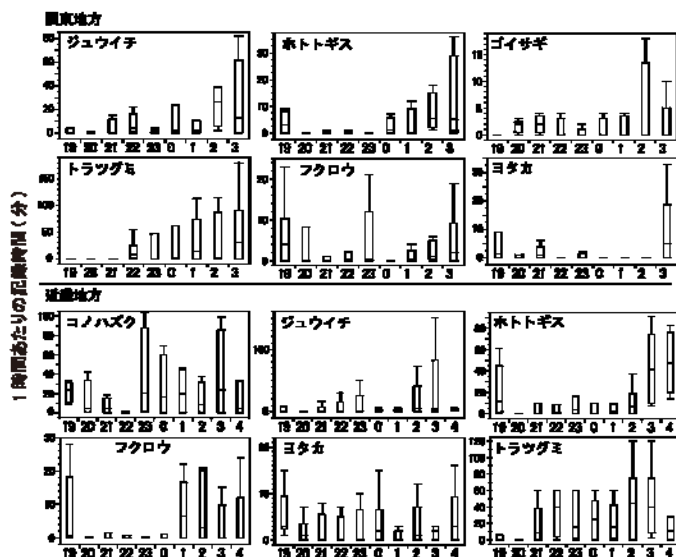


図2. 関東地方と近畿地方の夜行性鳥類の種別の記録頻度の時間帯別変化。植田(2008)を改変

モリーで6時間の録音ができますので、日の出前2時間を録音する場合、3日間の録音が可能となります(アルカリ電池とSDカードを使うと19.5時間可能)。そこで、今回の調査で録音調査にご協力いただける方に、ICレコーダーをお貸しして挑戦してみたいと考えています。

## 調査の方法

調査方法や録音のマニュアルは現在作成中ですが、おおまかな調査のイメージは次のようになります。

- ・調査地点に前日もしくはその前に下見に行った際に録音機をセットする。
- ・録音時間は、植田(2008)によると、日没後1時間程度と日の出前2時間程度が夜行性の鳥類の声がよく記録される時間帯となっていますので(図2)、日の出2時間程度前に録音開始のタイマーをセット、日の出30分後に録音停止するという設定をする。

・現地調査の際に機材を回収し、家で聞き取りをして、鳴いている種を記録する。

という流れです。

録音調査の難点は、録音した時間と同じ時間聞き直さないといけないという点ですが、暇のあるときに小分けに聞いていただければと思います。

初めての試みのため、過去の調査結果との比較の際には、考慮しなければならない点がいくつかあると思いますが、繁殖分布調査は今後何回も行われるので、その最初の記録として重要なものになると思います。ニュースレター創刊号でご紹介した、イギリスでの繁殖

分布調査に関わっているRSPBの方に聞いたところ、イギリスでも録音による分布調査は行なったことがなく、ぜひ結果を知りたいとのことでした。

今後、ご案内をお送りいたしますので、ぜひご協力ください。

【葉山政治】

## 引用文献

植田睦之（2008）森林の夜行性鳥類の効率的な調査時刻と録音による調査の可能性 Bird Research 4: T1-T8.

## アジアの陸鳥のモニタリングの会議に参加しました

3/17-18に香港で開かれたアジアの陸鳥のモニタリングの会議に参加してきました。この会議はバードライフが中心となって、昨年から開催されているものです。水鳥については、すでに渡り鳥の国際ネットワークがありますが、陸鳥についてはそうしたものがありませんので、まずは渡り鳥の繁殖地であるロシア、中国、韓国そして日本で情報交換を行ない、モニタリングをしていこうというものです。

今回の会議では、繁殖分布調査について話してきました。ロシアや中国といった国土の広い国で同様の分布調査をするのは容易ではありませんが興味を持ってもらえたようです。

それぞれの国の状況の違いなどから、本格的なモニタリングができるようになるのは、まだまだ先のことになりそうですが、手始めに、どの国でも減少が心配されているシマアオジやカシラダカについての情報交換をして

いこうということになりました。繁殖分布調査の結果から、情報を提供していくとともに、それ以外の成果を各国に知らせていくことで、アジアの陸鳥の保護に貢献していきたいと思います。

【植田睦之】



図1. 香港大学で開かれた会議の参加者。奥の2人が韓国から、真ん中の3人がロシア。一番手前は、アドバイザーとして参加したイギリスのRSPBの研究者

### 全国鳥類繁殖分布調査ニュースレター 第4号

2016年4月1日 発行

編集: 植田睦之, 新井実保子, 尾中潔, 柏崎安男, 小峯昇, 中村陽子, 藤田薫

© バードリサーチ・日本野鳥の会・日本自然保護協会・日本鳥類標識協会・山階鳥類研究所・環境省生物多様性センター

URL <http://www.bird-atlas.jp> <https://www.facebook.com/birdatlasjp> [https://twitter.com/bird\\_atlasjp](https://twitter.com/bird_atlasjp)